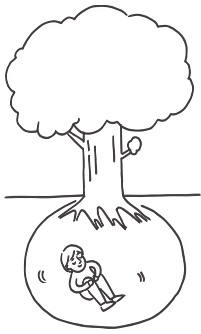


## インタビュー | 石川 伸一 (No.102)

好き：音楽 (NewWave)



### Q.自分のベースになったと思う原体験は？

父は、芸術や文化が好きな人でした。だから、家にはそういった本や、ポスターがありました。また、英語を使う仕事をしていたので、外国の雑誌も置いてあったり。その日本の雑誌とは違うビジュアルやデザインは印象に残っています。

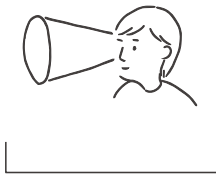
両親は図書館によく連れてってくれて、特に何を読めとはいわれずに、自由に本を選んで読むことができました。そのためか、本が大好きになった。小学生くらいになるとひとりで行くことも多くなって、たくさん本を借りたり、図書館で1日中読んでいたことも。



### Q.どこで、誰と出会う？

中学生ぐらい時から洋楽が凄く流行ったんです。高校生になるとレコード・レンタル店で友達とお金を出し合ってレコードを借りて、カセットテープに録音してコレクションしました。

あと、FM雑誌で番組をチェックして、好きなバンドの特集番組があると、そこからもテープに録音して。インターネットの無い時代だったので、音楽の情報交換を音楽好きの友人とよくしていました。



### Q.何を見た？

最初の一步としては、テレビ番組の「MTV」とか「ベストヒットUSA」で洋楽の情報を吸収した。それからは、ラジオやFM雑誌。そこからさらに「ロッキング・オン」「フルズメイト」といったロック専門誌を読むようになります。

専門誌にはマニアックな情報や、ロック以外のアートやカルチャーの情報もあり、それらにとっても影響を受けました。

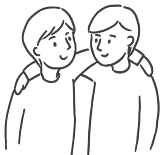


### Q.どう感じた？

ハマっていった。

学校の勉強とは違い、自分の興味で自由にロックの世界を探っていくのはとても刺激的で楽しかったんです。最初は感覚から入る。例えばカッコいいとか、気持ちがいいとか。

いろんな曲を聴いて雑誌や本で音楽の知識がついてくると、自分の好きな楽器の音がわかってきたり、好きなバンドのルーツになっている音楽やミュージシャンの人間関係やロックの歴史を考えながらコンテキスト（文脈）を考えるようになって...



### Q.そのあとのストーリー

そこからは、自分なりの解釈を試みながら音楽を聴くのが楽しくなっていきます。イギリスのNEW WAVE、NEO ACOUSTIC と呼ばれるジャンルの音楽が自分の「好き」の中心になっていきました。これらの音楽のレコード・ジャケットからアートやデザインへもより深く興味を持つようになって。

アートやデザインも深く掘り下げる方法もコンテキスト（文脈）で考える、ということ役立っているし、楽しさにもつながっています。